

## 銀賞

下水道出前教室で学んだこと

村松 佑一

筑前町立三輪小学校

先日、下水道出前教室で、宝満川浄化センターの方たちから、下水道の役割や活性汚泥生物について、実験も踏まえ、分かりやすく説明して頂きました。

家庭や工場等で使われ、汚れた水は、汚水まずに流され、下水の旅が始まります。次に、公共ますから下水道本管に行きます。そこから、ポンプ場で一度くみ上げられます。そして、沈砂池で、一度大きなゴミや土砂をとり除きます。次に、最初沈殿池で、小さなゴミや泥を沈めます。そして、反応タンクで微生物の入った活性汚泥を混ぜ、空気を吹きこんで、よごれを沈みやすくします。さらに、最終沈殿池でもう一度反応タンクで大きなかたまりとなった泥を沈め、上ずみを流します。最後に、水質検査で川や海に流せるかどうか検査し、消毒をして、川に流します。これでやっと、長い下水の旅が終わります。下水道は、汚水をきれいにし、川や海に流す役わりだけでなく、街を浸水から守ったり、きれいにしたりする役割があることも、この学習を通して知ることができました。

また、この学習を通して、地球の七十パーセントは水だが、今すぐ飲める水は、〇・〇一パーセントということや、下水処理場では活性汚泥生物が水をきれいにしているということ、活性汚泥生物には、二十四種類も仲間がいることを学ぶことができました。さらには、熱いお湯を流してはいけないこと、油を流すと、下水管ポンプが詰まった

り、活性汚泥生物が息ができずに死んでしまったりするため、油は、流してはいけないこと、かみの毛やトイレトーパー以外の紙等を流すと、下水管が詰まるため、流してはいけないことも知りました。実に、実験でティッシュペーパーよりも、トイレトーパーの方が水にとけることが分かりました。出前教室で、分かりやすく説明していただき、学びを深めることができました。

ぼくたちは、出前教室で教えてもらったように、熱いお湯やかみの毛、トイレトーパー以外の紙、油等を流さないようにしたり、お母さんやおばあちゃんに、教えてもらったことを話して、より多くの人に、下水道について、関心をもってもらったりしたいです。また、節水に心がけ、家庭内でも一度水をむだにしないための工夫をしつかりと話し合っていきたいです。水について、しっかりと考え、見直す機会となったのでよかったです。